

市民公開講座

第38回日本臨床薬理学会学術総会

日時：2017年12月9日(土) 15:00-17:00

会場：パシフィコ横浜 会議センター 1F メインホール

定員：700名(予定)
参加費：無料患者にとって最善の治療とは
なんだろう？

病と向き合うことになった患者さんは、治療の情報をどこで得るのでしょうか。

医師から、書籍から、新聞やテレビ報道から、インターネットから、家族や友人から…。

得られる情報は、患者さんにとって、よりよい治療につながるのでしょうか。

あまたの医療情報をどう見極め、どのように病と向き合い、

そして最善の治療につなげていくためにどうしたら良いのか、

医療情報に興味のある皆さんと一緒に考える時間にしたいと思います。

プログラム

司会進行：鈴木 美穂 NPO法人マギーズ東京 共同代表理事

【プロフィール】1983年生まれ。2006年慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、日本テレビ入社。2008年24歳のときに乳がんが発覚し、手術、抗がん剤治療等を経て、8か月後に職場復帰。日本テレビでは報道一筋で、社会部、政治部で厚労省、官邸、与・野党などの担当記者をしながら、自身の目線で描いたがんのドキュメンタリーなど特集や番組を多数制作し、日本医学ジャーナリスト協会賞優秀賞受賞。2017年1月からは社会部記者と「スッキリ!」「ミヤネ屋」のニュースコーナーのキャスターを兼務。



《講演》

医療情報の「見極め方」「向き合い方」

大野 智 大阪大学大学院医学系研究科統合医療学寄附講座
寄附講座准教授

【プロフィール】1998年島根医科大学卒業。2002年同大大学院にて医学博士取得。その後、金沢大学、東京女子医科大学等を経て現職。現在、朝日新聞医療サイト「アピタル」にて医療情報の見極め方をテーマにコラムを執筆中。



医療に関する情報は「エビデンス(科学的根拠)」があることが重要です。また「エビデンス」には、根拠を導き出す方法により、信頼性に高低があります。では、何を以って「エビデンス」の信頼性を判断すれば良いのでしょうか。今回は「エビデンス」の信頼性について解説するとともに、その「エビデンス」をどのように治療方針の意思決定に取り入れていけばよいのかを、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

《フリートークショー》

患者にとって最善の治療とはなんだろう？

患者側より：片木 美穂 卵巣がん体験者の会スマイリー 代表

【プロフィール】1973年9月大阪府生まれ、現在東京都在住。30歳で卵巣がんと告知され、2006年9月患者会を設立。(現職)卵巣がん体験者の会スマイリー 代表/北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアム倫理委員/一般社団法人 東北臨床研究審査機構理事



天野 慎介 一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン 理事長

【プロフィール】1973年東京都生まれ、慶應義塾大学商学部卒。2000年に血液がんのリンパ腫を発症して化学療法などを受け、2回の再発を経験。患者支援活動や、厚生労働省などの公的会議で患者委員を務める。(現職)一般社団法人 全国がん患者団体連合会 理事長

医療者側より：大野 智 大阪大学大学院医学系研究科統合医療学寄附講座
寄附講座准教授勝俣 範之 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科 教授、部長、
外来化学療法室 室長

【プロフィール】1988年富山医科大学薬科大学医学部卒業。2011年10月より現職。がん薬物療法専門医。腫瘍内科の第一人者。がんサバイバー支援、正しいがん情報の発信などに力を入れている。近著に「医療否定本の嘘(扶桑社刊)」、「抗がん剤は効かない」の罪(毎日新聞社刊)がある。

JSCPT
日本臨床薬理学会

主催：日本臨床薬理学会

後援：神奈川県、横浜市、相模原市、神奈川新聞社、テレビ神奈川

運営：日本コンベンションサービス株式会社